

令和7年度沖縄市DX推進課 データ利活用・EBPM取組評価資料

アドバイザー：下山 紗代子さま 古川 泰人さま

日時：令和7年12月8日
場所：B2F 沖縄市DX推進課
担当：有銘、半嶺

令和6年度 経営・財務マネジメント強化事業 支援分野及び支援方法

支援分野及び支援の方法

支援分野	⑤地方公共団体のDXに関すること
対象事業 (支援分野①又は②の場合)	
支援の方法	課題対応アドバイス事業

支援分野5 選択項目

具体的支援分野

※支援分野5を選択した場合のみ選択（複数回答可）（啓発・研修事業、首長・管理者向けトップセミナーを除く）

- DXの機運醸成 情報システムの標準化・共通化 マイナンバーカードの利活用の推進
- 行政手続のオンライン化 データ利活用・EBPM BPR・業務改革
- 自治体職員のデジタル人材への育成 外部デジタル人材の確保 セキュリティ対策
- 消防防災DX
- その他

DX推進計画策定に関する助言

デジ田交付申請 BIツール活用による行政保有データの可視化とダッシュボードの公開事業

推進体制

9

■ 事業推進体制

※申請団体のみならず、サービス提供事業者を含め、事業推進体制に参画する（予定を含む）各主体及び、申請事業を実施する上で協力・連携が不可欠である地域のステークホルダー全てについて体制図に記載するとともに、下欄に各主体の役割を具体的に記載すること。



名称	役割
沖縄市	<ul style="list-style-type: none">事業計画の立案報告書作成をはじめとする事業全般の管理・統括業務内諾済
委託業者 (入札)	<ul style="list-style-type: none">BIツール導入に伴う環境構築ライセンス調達操作研修、QA対応
地域情報化アドバイザー	<ul style="list-style-type: none">BIツールを用いたデータ利活用の具体的な事例の紹介や普及促進のための手法などの助言や提案

名称	役割

デジ田交付申請に沿って、
外部の有識者の知見や評価を頂きたい

下山さま、古川さまのお力添えを頂きたい事項

目的

「BIツールを用いたデータ利活用の具体的事例の紹介や
普及促進のための手法などの助言や提案」



① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

- ・既存取り組み デジ田交付金KPI関係
- ・令和7年度以降の新規取り組み

② 本市担当へ、推奨する取り組み事項

(参考) 沖縄市DX推進計画

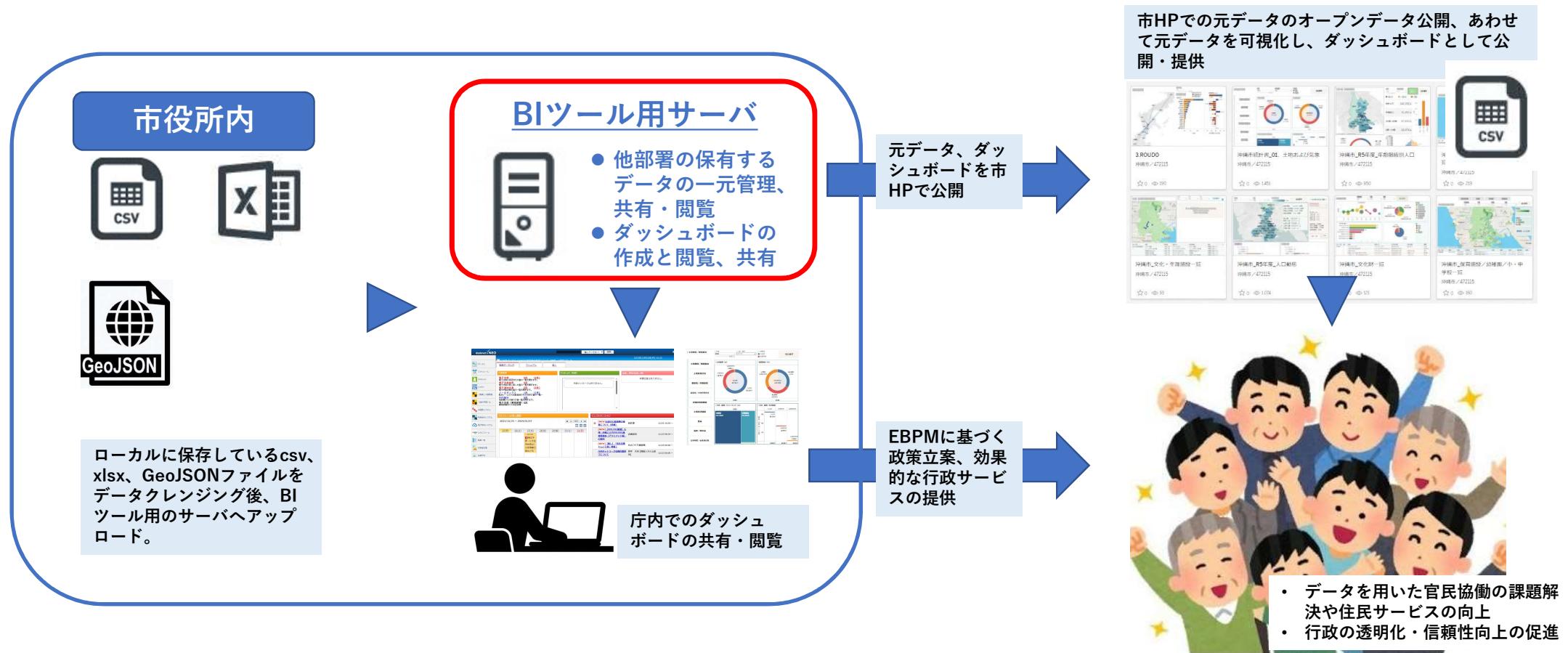
5-1 実施施策スケジュール[基本方針]

基本方針1 個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現	主な取組 施策2 データ利活用によるまちづくりを推進する	2022	2023	2024	2025	2026
施策2 データ利活用によるまちづくりを推進する	オープンデータの推進	オープンデータの追加・公開				
		オープンデータの利活用促進				
		5 Star Open Data公開レベル3以上の割合 【現状値】0%			【目標値】100%	
シビックテックの促進	シビックテックの周知					
		シビックテックイベントの開催数 【現状値】0回			【目標値】3回/年	
データ分析によるまちづくりの推進	ダッシュボードサイトの調査・構築					
		第5次沖縄市総合計画の各都市像におけるダッシュボード構築数 【現状値】0件			【目標値】1件/都市像	

指標基準日|現状値2021年4月1日、目標値2027年4月1日

デジ田交付申請時の取組概要

① 現時点で、[本市担当が取り組んでいる事項](#)への評価・指導



デジ田交付申請時のKPI アウトプット指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI① 本市HPに公開したダッシュボード公開数		種別	アウトプット	単位	件／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードの公開件数。 市CMSから集計し、2024年4月より公開した新規ダッシュボード作成数を集計する。				
事業成果等の計測に適する理由	BIツール用サーバ構築後、各課が保有するデータをサーバ内で管理・集約し、そこからダッシュボード作成・公開へと繋げるサイクルを整備することが、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠 ：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半分の部署にダッシュボードの公開に取り組んでもらい、3年でライセンス配布部署全てで達成する。				
2024年度末	5	2025年度末	7	2026年度末	10
KPI② ダッシュボード作成ができる職員数		種別	アウトプット	単位	人／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードを内製できる職員の人数。 ダッシュボード公開時に、どの職員が作成したかを確認して計測する。				
事業成果等の計測に適する理由	住民が意見を出しやすい環境を整備するため、市民が現状を把握できるようなダッシュボードを内製できる職員が必要と判断しており、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠 ：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半数の部署にダッシュボードを作成、市HPで公開する取組みをスタートさせ、3年でライセンス配布部署全てで達成する。				
2024年度末	5	2025年度末	7	2026年度末	10
KPI③ 本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数		種別	アウトプット	単位	件／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードの閲覧件数 2024年4月より公開した新規ダッシュボードの閲覧数を集計する。				
事業成果等の計測に適する理由	可視化されたダッシュボードが実際に閲覧されることが、課題発見や住民・民間団体から要望や提言を受けるための契機になると判断しており、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠 ：本市が公開する「沖縄市オープンデータ」がR5年6月からR5年12月の約7ヵ月間で、946（月120前後）の閲覧ビューであった。ダッシュボードページも同様の推移を辿ると見込み、年100ずつ閲覧数を増加させることを目標とする。				
2024年度末	1ダッシュボードにつき閲覧数 100回	2025年度末	1ダッシュボードにつき閲覧数 200回	2026年度末	1ダッシュボードにつき閲覧数 300回

デジ田交付申請時のKPI アウトプット指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI① 本市HPに公開したダッシュボード公開数		種別	アウトプット	単位	件/年
KPIの概要、測定方法		ダッシュボードの公開件数。 市CMSから集計し、2024年4月より公開した新規ダッシュボード作成数を集計する。			
事業成果等の計測に適する理由		BIツール用サーバ構築後、各課が保有するデータをサーバ内で管理・集約し、そこからダッシュボード作成・公開へと繋げるサイクルを整備することが、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半分の部署にダッシュボードの公開に取り組んでもらい、3年でライセンス配布部署全てで達成する。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	
KPI② ダッシュボード作成ができる職員数		種別	アウトプット	単位	人/年
KPIの概要、測定方法		ダッシュボードを内製できる職員の人数。 ダッシュボード公開時に、どの職員が作成したかを確認して計測する。			
事業成果等の計測に適する理由		住民が意見を出しやすい環境を整備するため、市民が現状を把握できるようなダッシュボードを内製できる職員が必要と判断しており、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半数の部署にダッシュボードを作成、市HPで公開する取組みをスタートさせ、3年でライセンス配布部署全てで達成する。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	
KPI③ 本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数		種別	アウトプット	単位	件/年
KPIの概要、測定方法		ダッシュボードの閲覧件数 2024年4月より公開した新規ダッシュボードの閲覧数を集計する。			
事業成果等の計測に適する理由		可視化されたダッシュボードが実際に閲覧されることが、課題発見や住民・民間団体から要望や提言を受けるための契機になると判断しており、本事業の成果として妥当であると考える。 根拠：本市が公開する「沖縄市オープンデータ」がR5年6月からR5年12月の約7ヶ月間で、946（月120前後）の閲覧ビューであった。ダッシュボードページも同様の推移を辿ると見込み、年100ずつ閲覧数を増加させることを目標とする。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
1ダッシュボードにつき閲覧数 100回		1ダッシュボードにつき閲覧数 200回		1ダッシュボードにつき閲覧数 300回	

2024年度末 実績

16 ダッシュボード

2 人

7147 回

(446回/1ダッシュボード)

デジ田交付申請時のKPI アウトカム指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI① オープンデータ／ダッシュボードを用いた課題解決の提案数		種別	アウトカム	単位	個／年
KPIの概要、測定方法		市が公開したダッシュボードやオープンデータを活用し、住民が市へ課題解決の提案を行った数。測定方法は、アイデアソン等、市が主催するイベントで、参加者から提案のあった数を期間ごとに集計する。			
事業成果等の計測に適する理由		市の目指す将来像は、データに基づく客観的な合意形成にある。このKPIが市民のデータ活用と行政参画が行えているかを測れる指標であるため、妥当であると考える。 根拠：令和5年度に市が主催したアイデアソンで、参加者をグループ分けした際に出来上がったグループが4～5つであった。今年度のグループ数を下限とし、各グループから課題解決の提案ができるようにし、最終年度で提案数が2倍増の提案数が頂けることを目標に、KPIを設定した。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	

KPI② オープンデータ／ダッシュボード提供に対する住民満足度アンケート		種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法		システム利用者アンケートを実施、設問の回答から満足度を測定(5段階評価)する。その内、「5. 満足」と「4. やや満足」と回答した割合の集計を行う。			
事業成果等の計測に適する理由		システム利用者満足度を測ることによって、利用者の利用に困っている点などを洗い出し、市が保有している行政データ公開の更なる促進に繋がると考える。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
30%		40%		50%	

デジ田交付申請時のKPI アウトカム指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI① オープンデータ／ダッシュボードを用いた課題解決の提案数		種別	アウトカム	単位	個／年
KPIの概要、測定方法		市が公開したダッシュボードやオープンデータを活用し、住民が市へ課題解決の提案を行った数。測定方法は、アイデアソン等、市が主催するイベントで、参加者から提案のあった数を期間ごとに集計する。			
事業成果等の計測に適する理由		市の目指す将来像は、データに基づく客観的な合意形成にある。このKPIが市民のデータ活用と行政参画が行えているかを測れる指標であるため、妥当であると考える。 根拠：令和5年度に市が主催したアイデアソンで、参加者をグループ分けした際に出来上がったグループが4～5つであった。今年度のグループ数を下限とし、各グループから課題解決の提案ができるようにし、最終年度で提案数が2倍増の提案数が頂けることを目標に、KPIを設定した。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	

2024年度末 実績

9
つ

KPI② オープンデータ／ダッシュボード提供に対する住民満足度アンケート		種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法		システム利用者アンケートを実施、設問の回答から満足度を測定(5段階評価)する。その内、「5. 満足」と「4. やや満足」と回答した割合の集計を行う。			
事業成果等の計測に適する理由		システム利用者満足度を測ることによって、利用者の利用に困っている点などを洗い出し、市が保有している行政データ公開の更なる促進に繋がると考える。			
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
30%		40%		50%	

76.7
%

令和6年度 既存取り組み デジ田交付金指標関係

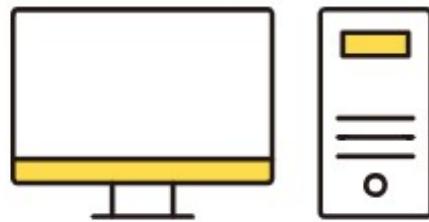
① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導



令和7年度 新規取り組み

① 現時点で、[本市担当が取り組んでいる事項](#)への評価・指導

Tableauサーバー環境



よろず相談開始



EBPM研修



オープンデータ取組 ①元データの収集

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

沖縄市HPで新規公開するオープンデータの**元データ提供依頼**を全庁に呼びかけています。

アナウンスは、事前に民間団体などへニーズ調査を行い、市に公開してほしいデータを把握し、そのデータを保有していると思われる部署まで特定した上で、行っています。



実施主体

元データの保有部署

時期・頻度

年1回 (毎年12月～翌1月迄)

取組戦略

- 依頼先以外の部署も取組みを知ってもらえるよう庁内グループウェア「インフォメーション」機能を活用。
- 元データの提供が負担にならないよう、全庁共有のフォルダと**Logoフォーム**を活用。
- R7より、ニーズ調査はアイデアソン内で収集している。

実績

- 令和4年度 19データセット
- 令和5年度 25データセット
- 令和6年度 16データセット**
- 令和7年度 14データセット (予定)**

目標

- 元データ保有部署が**自動的**に元データを提供する。
- DX推進課の依頼時期は**年1回**とせず、隨時行う。

オープンデータ取組 ②オープンデータの作成

① 現時点での本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

沖縄市HPで新規公開するオープンデータの**作成**を行います。オープンデータは自治体標準ODS、データ・モデル型、GIFに準拠して作成を行っています。

あわせて、既に作成を終えた**オープンデータの更新**を元データ保有の部署へ依頼し、オープンデータの鮮度を保っています。

実施主体

- 作成 **DX推進課**
- 更新 **元データ保有の部署**

時期・頻度

年1回 (毎年翌1月～翌2月迄)

取組戦略

- オープンデータ作成業務はR6までは委託で行っていたが、**R7より、DX推進課で内製する予定。**
- アイデアソン内でオープンデータ化してほしいデータを聴取し、庁内から元データをいただき、DX推進課にて作成する。



実績

- 令和4年度 19データセット
- 令和5年度 25データセット
- 令和6年度 16データセット**
- 令和7年度 14データセット (予定)**
- DX推進課作成成分 約160データセット (統計書)

目標

- DX推進計画の期間内で**100**のオープンデータ作成する。
- データ定義項目書に沿った**オープンデータ作成をDX推進課**でも行う。

オープンデータ取組 ③ 庁内データベース・HP公開

概要

作成したオープンデータを市HPで公開しています。あわせて、市独自のオープンデータカタログ上にも公開しています。

また、**庁内のTableauサーバ内**にもオープンデータを公開し、Tableauライセンスユーザがダッシュボード作成に使用できるよう整えています。

実施主体

DX推進課 (委託先で作成)

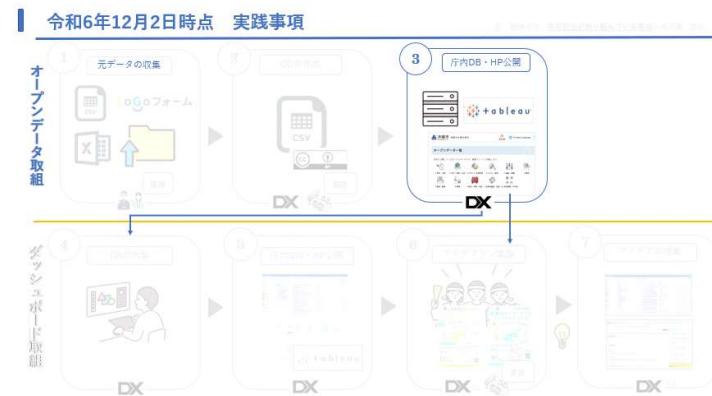
時期・頻度

- ・**委託分 年1回** (毎年翌2月～翌3月迄)
 - ・**DX推進課作成分 隨時**

取組戦略

- 令和5年度より、基幹統計ダッシュボード内製を開始。沖縄市統計書の元データをオープンデータとして公開。
 - より多くのオープンデータを公開しつつ、見やすいUIとなるようHPのレイアウトをアーカイブ形式に変更。
 - スクレイピングツールを活用し、「**BODIK ODCS**」への自動アップロードの仕組みを、構築済み。

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導



実績

オープンデータカタログページ掲載データ

- 令和4年度 20データ
 - 令和5年度 209データ
 - 令和6年度 173データ
 - **令和7年度 237 データ** (R7.12.2時点)

- 元データ保有部署が**自主的**にオープンデータを作成・公開する。

ダッシュボード取組

④ダッシュボードの内製

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要	KPI② ダッシュボード作成ができる職員数		
	2024年度末	2025年度末	2026年度末
	5	7	10

オープンデータと基幹統計データを使い、**住民向けに公開するダッシュボードの内製業務**に取り組んでいます。

また、令和6年度からオンプレミスのBIツールサーバを導入。ライセンス配布ユーザーもダッシュボード内製の取組みを開始しています。

実施主体	DX推進課、ライセンス配布ユーザー
------	-------------------

時期・頻度	随時
-------	----

取組戦略
<ul style="list-style-type: none">DX推進課と委託業者へ随時QA対応が行えるようビジネスチャット内にライセンス配布ユーザを招待。庁内において適宜、DX推進課で作成支援を行う。デ「ダッシュボード作成支援（よろず相談）」をLogoフォームにて受付開始、デジタル庁「要件定義ワークシート」活用。



実績
• 令和5年度 2人
• 令和6年度 2人
• 令和7年度 3人

目標
<ul style="list-style-type: none">デジ田KPIを達成する。企業や民間団体などとやり取りし、利用の需要が高いダッシュボードをピンポイントに作成する。

ダッシュボード取組 ⑤-1 庁内グループウェア・市HPで公開

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

KPI① 本市HPに公開したダッシュボード公開数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
5	7	10

DX推進課が作成したダッシュボードを庁内向け、市民向けに公開しています。

公開時は市HPの「**活動履歴**」ページで、公開したダッシュボードの案内を行っています。

実施主体

DX推進課

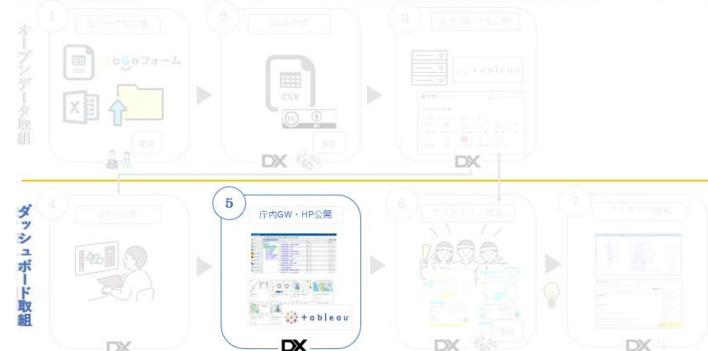
時期・頻度

随時

取組戦略

- DX推進課が作成したダッシュボードを庁内グループウェア「**電子会議室**」機能を活用。外部公開できないダッシュボードもこちらで公開。
- 外部公開のダッシュボードは「**Tableau Public**」を活用。
- 今後、ダッシュボードの公開時は、**SNSを活用**し、ダッシュボードの周知・案内に努める。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和5年度 28ダッシュボード
- 令和6年度 16ダッシュボード
- 令和7年度 19ダッシュボード (随時追加)

目標

- デジ田KPI**を達成する。
- 企業や民間団体などとやり取りし、**利用の需要が高い**ダッシュボードをピンポイントに作成、公開する。

ダッシュボード取組 ⑤-2 庁内グループウェア・市HPで公開

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

KPI③ 本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
1ダッシュボードにつき閲覧数	1ダッシュボードにつき閲覧数	1ダッシュボードにつき閲覧数
100回	200回	300回

DX推進課が作成したダッシュボードを庁内向け、市民向けに公開しています。

公開時は市HPの「**活動履歴**」ページで、公開したダッシュボードの案内を行っています。

公開したダッシュボードの閲覧数を集計します。

実施主体

DX推進課

時期・頻度

随時

取組戦略

- 外部公開のダッシュボードの「**Tableau Public**」上 ビュー数を計測する。
- 今後、ダッシュボードの公開時は、**SNSを活用**し、ダッシュボードの周知・案内に努める。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和6年度 7147回 (1ダッシュボードあたり446回)
 - 令和7年度 6573回 (R7.12.2時点)
- R6増分：7863 R7現時点での閲覧数増分：14436

目標

- デジ田KPI**を達成する。
- 企業や民間団体などとやり取りし、**利用の需要が高い**ダッシュボードをピンポイントに作成、公開する。

ダッシュボード取組 ⑥アイデアソン実施

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

KPI① オープンデータ/ダッシュボードを用いた課題解決の提案数		
2024年度末	2025年度末	2026年度末
5	7	10

DX推進課が公開したオープンデータ及びダッシュボードを使って、沖縄市の**地域課題解決**をテーマにワークショップを開催しています。

参加者がグループに分かれ、興味のある課題テーマを設定、沖縄市のオープンデータやそれらを可視化したダッシュボードをもとに、課題解決のテーマを発表します。

実施主体

DX推進課 (委託先で企画運営を実施)

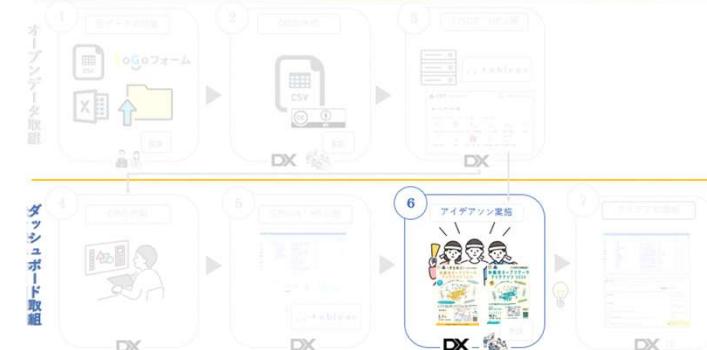
時期・頻度

年3回 (一般向け 2回 学生向け 1回)

取組戦略

- 毎年、取り組む内容をステップごとに変化させている。R5は**オープンデータ**のみ、R6は**ダッシュボード**を活用。R7は**生成AIの使用**。R8はコミュニティ形成のため、連続講座を検討。
- 参加者が今後も継続して興味をもってくれるよう、**身近に感じられるデータ**を選択し、ダッシュボードを公開。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和6年度** ①6 ②3
- 令和7年度** ①5 ②4

①一般向け (延べ数)

②学生向け (R7はスタートアップ起業者含む)

目標

- デジ田KPI**を達成する。
- ワークショップだけではなく、いつでも本市へ**課題提案ができるプラットフォーム**を構築する。

ダッシュボード取組

⑦アイデアソンの掲載

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要	KPI② オープンデータ/ダッシュボード提供に対する住民満足度アンケート		
	2024年度末	2025年度末	2026年度末
	30%	40%	50%

アイデアソンで各グループが出した課題解決のアイデアを、市HP「**活動履歴**」ページで公開しています。

あわせて、庁内グループウェア「**インフォメーション**」にも掲載し、市民のアイデアを共有しています。



実施主体 **DX推進課** (委託先で企画運営を実施)

時期・頻度 **年3回** (一般向け 2回 学生向け 1回)

実績

- 令和6年度 満足度 76.7%
(総回答30 満足度5, 4の回答数23)
- 令和7年度 満足度

取組戦略

- 市HPで掲載したページは公開時に「**新着情報**」のチェックを入れ、市HPのTOPページで公開されるように設定。
- 県内自治体と連携し、オープンデータイベントの周知活動を行っている。県のHPにて、県内オープンデータイベントのR7年度成果を公開予定（沖縄県庁、那覇市、浦添市、宜野湾市）

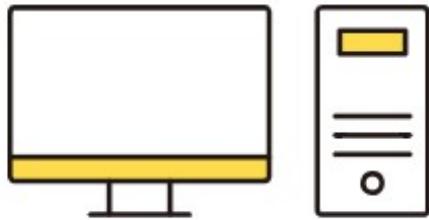
目標

- 提出されたアイデアを**事業の見直し、事業化の根拠**として活用できるよう使用するシートを向上させる。

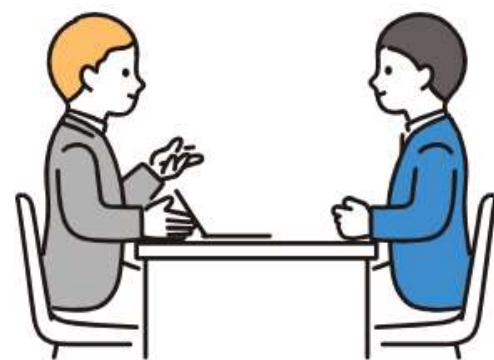
令和7年度新規取り組み

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

Tableauサーバー環境



よろず相談開始



EBPM研修



R7年度 取組 ①庁内Tableauサーバーデータソース自動化

① 現時点での、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

R6年度導入したオンプレミスのTableauサーバーホストOS内に元データの格納場所（TB_Share）を設置しました。ダッシュボードの参照するデータはこちらに格納します。庁内職員もこのフォルダを参照可能です。TB_Share内のデータが追加・更新された際に、Tableau Server上のデータソースを**自動更新可能**になりました。

実施主体

DX推進課、（委託先業者）

時期・頻度

月1回自動更新（月次でデータ抽出実施）

取組戦略

- 基幹系システムから、EUC抽出したデータを共有フォルダへ格納、Tableauサーバーから、そのフォルダ内のデータを参照する事で、**アップロードの手間をかけず、データ更新が可能**になりました。
- 随時更新系ダッシュボードについては、このフォルダを活用し、データのアップロード時間を縮減します。



実績

令和7年度（5月～）
・データ数：98
・自動更新ダッシュボード数：3

目標

- データソースの効率的な管理を行う。

R7年度 取組 ② よろず相談開始

① 現時点での、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

各部署からのデータ可視化や分析に関する相談にDX推進課が技術的な支援を提供します。

申請フォームより、作成したいダッシュボード、元データを受け、ヒアリング実施します。

デジタル庁の要件定義ワークシートに基づき、ヒアリングから作成までを一貫して支援します。

実施主体

DX推進課

時期・頻度

随時

取組戦略

- まずはTableauライセンスユーザーを対象に作成支援を行い、ノウハウを蓄積。
- 経済文化部を対象に予算ダッシュボード作成支援などを実施し、特定テーマにおけるデータ活用モデルを検証。
- 庁内インフォメーションを通じて全職員へ周知し、常時ダッシュボード作成希望を受け付ける体制を構築。



実績

令和7年度 (4月～)

- 相談部署：9課
- 作成中：5件

目標

- ダッシュボードを作成できる職員数の増加。
- 庁内EBPMの推進につなげる。

R7年度 取組 ③庁内EBPMの推進

① 現時点での、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

庁内EBPMを推進するため、職員に対し研修、情報発信を行います。意思決定にデータを活用することを推進します。



実施主体

DX推進課、人事課

時期・頻度

年1回研修 隨時庁内情報発信

取組戦略

- R7.11.19 次長級職員をデジタル推進リーダーとし、マイアンドセット、経営・財務マネジメント事業を活用し**EBPM研修を実施**しました。
- 庁内インフォメーションにて、研修内容を抜粋したEBPMについての情報を発信しました。DX推進課にて庁内EBPMの最初のステップであるデータの見える化を支援します。

実績

令和7年度

- 令和7年11月19日 EBPM研修実施
- 庁内インフォメーションにて情報発信1回

目標

- 職員が誰でも意思決定にデータを活用することができる。

アウトプット指標

➤ アウトプット指標①：本市HPに公開したダッシュボード公開数

- ・ **【目標】令和6年度：5個、令和7年度：7個、令和8年度：10個**
- ・ **令和6年度実績：16個（統計書13分野+ごみの分別方法、消防予算、防災行政無線設置一覧）**

- ・目標値を上回る実績であり、取り組みが順調に進んでいることを示す。
- ・閲覧数との関連で、どのダッシュボードが注目されているかを特定し、今後のダッシュボード作成の参考にすべきとの提案あり。

➤ アウトプット指標②：ダッシュボード作成ができる職員数

- ・ **【目標】令和6年度：5名、令和7年度：7名、令和8年度：10名**
- ・ **令和6年度実績：2名（DX推進課職員）**

- ・KPIの中で唯一目標達成には至っていない。アドバイザーより、人材育成は地道に進めていき、KPI達成に焦らなくてもよいとの評価。
- ・職員が手を挙げにくい背景として、「忙しさ」「スキルのハードル」「IT部門への遠慮」などが考えられる。
- ・熊谷市「Tableauカフェ」のような気軽に相談できる場を設置し、初期ハードルを下げる。
- ・期間限定のライセンスを活用した集中的な勉強会（セールスフォース社への相談も視野に）。
- ・研修形式で、簡単なダッシュボード作成から始め、グループ内でいいので成果発表の場を設けることで達成感とモチベーション向上を図る。
- ・成果事例（例：予算ダッシュボード、議会対応）を共有し、BIツール活用のメリットを具体的に示す。
- ・研修を修了し作成経験を終えた職員数とすることも参考に、達成しやすい目標設定も検討。

アウトプット指標

➤ アウトプット指標③：本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数

- ・ 【目標】令和6年度：100回、令和7年度：200回、令和8年度：300回 ※1ダッシュボードあたり
- ・ 令和6年度実績：7147回 (446回／1ダッシュボード)
(令和6年度末時点、R6年度中に新規公開した16ダッシュボードを対象に集計)

- ・目標を上回る実績。特に避難所一覧、人口統計、労働力関係のダッシュボードがよく見られている。
- ・閲覧数の計測方法について、Tableau Publicと市ホームページ（埋め込み）でのカウントが混在している現状を整理。現在のカウント方法で特段問題ない、作成編集後はビュー数をリセットするなど処理を行う。
- ・KPIの計測方法として、単年度の新規公開数ダッシュボードのビュー数だけでなく、過去に公開したダッシュボードもビュー数を更新し続けているため、累積閲覧数での評価も検討し、トータルでの実績として示してもよい。
- ・HPのダッシュボード閲覧数について、Google AnalyticsとTableauの連携の提案あり。ホームページのアクセス数や滞在時間、どのページからダッシュボードに流入しているなどを詳細に分析する事で、効果的なダッシュボード運用や広報戦略に活かす事が出来る。ただし、府内のインターネット環境により、Google Analyticsデータへのアクセス制限がある場合、広報公聴係や情報システム課との調整が必要。閲覧数を追う事で、LINEなどSNSによる告知の閲覧数への影響などを検証可能。

アドバイザーより助言・評価

① 現時点で、[本市担当が取り組んでいる事項](#)への評価・指導

アウトカム指標

➤ アウトカム指標①：オープンデータ／ダッシュボードを用いた課題解決の提案数

- ・ **【目標】**令和6年度：5件、令和7年度：7件、令和8年度：10件
- ・ **令和6年度実績：**9件（アイデアソンで提案されたもの）

- ・目標を達成している。
- ・令和8年度は一般市民向けに連続講座を実施検討中。この方針転換に伴い提案数が一時的に減少する可能性を相談。
- ・「チャレンジオープンガバナンス（COG）」のような外部のコンテストへの応募を検討することで、提案の具体性や実現性を高めるとともに、外部からの評価や助言を得る機会を創出できる。
- ・アイデアソンは「アイデア出し」だけでなく、「活用」を明確にするターゲティングが重要。例えば、「地域課題の解決に強い関心を持つ特定団体に焦点を当てる」など。

アドバイザーより助言・評価

① 現時点で、[本市担当が取り組んでいる事項](#)への評価・指導

アウトカム指標

➤ アウトカム指標②：オープンデータ／ダッシュボード提供に対する住民満足度アンケート

- ・ 【目標】令和6年度：30%、令和7年度：40%、令和8年度：50%）
(満足度5段階評価の内、「5：高い」、「4：やや満足」の割合)
- ・ 令和6年度実績：76.7%（総回答30件中、満足・やや満足が23件）

- ・目標を達成しており、ダッシュボードに対する住民の満足度は高い。
- ・ただし、R7アイデアソンでのアンケートには「探しにくい」「操作が難しい」といった意見も含まれるため、ユーザーインターフェース（UI）/ユーザーエクスペリエンス（UX）の改善は継続的な課題。
- ・ダッシュボードの品質保持のため、デザインガイドラインを策定し、統一感のある見やすいダッシュボードを目指すべき。専門書「Tableauによる最適なデータ視覚化」や渋谷区のダッシュボードデザインガイドインの活用を推奨。
- ・回答数が30件とまだ少ないため、今後もアンケートの回答数を増やすための工夫が必要。

アドバイザーより推奨する取り組み事項

② 本市担当へ、[推奨する取り組み事項](#)

オープンデータ関係の取り組み

➤ オープンデータ公開の自動化・効率化の推進

CMSの機能やAPIを活用し、HP更新と同時にBODIKカタログサイトも自動更新する仕組みへの移行検討。Python等のプログラムによるエラーチェックや登録状況の自動確認。

➤ データの品質管理の徹底

重複ファイルの整理、最新化、または明確なバージョニングの実施。

自治体標準オープンデータセットやGIF（政府相互運用性フレームワーク）を参照したデータ形式の標準化。AIによるデータ加工はハルシネーションリスクがあるため、慎重な利用と手動確認の徹底。

➤ ニーズ収集アプローチの改善

データリクエスト時に具体的な用途・目的までヒアリングし、原課の協力と活用に繋がるニーズを優先。

➤ データ標準化への対応

基幹系システムからのデータ出力が国の標準仕様に準拠しているか、また非必須項目出力の費用有無を情報システム部門へ確認。

アドバイザーより推奨する取り組み事項

② 本市担当へ、[推奨する取り組み事項](#)

ダッシュボード関係の取り組み

➤ 人材育成と普及の強化

熊谷市「Tableauカフェ」や期間限定ライセンスを活用した勉強会など、気軽に触れられる機会の創出。より身近で興味を引くようなテーマ（予算、議会対応など）でダッシュボードをくせい、共有し、BIツールのメリットを提示。

Google Analytics連携でHPアクセステータを可視化し、各課へフィードバックする仕組みの構築。

➤ 相談窓口の運用改善

「Tableau相談」に限定せず、データ活用のお困りごと相談として広く受け付ける。広報には専門用語を避け、親しみやすい表現やイラストを活用し、ハードルを下げる。

➤ 品質保持とデザイン統一

ダッシュボードのデザインガイドラインを策定し、統一感と見やすさを確保。

シビックテックイベントの取り組み

➤ イベント設計

特定の層にターゲットを絞り、具体的なテーマを設定し、質の高い議論とコミュニティ形成につなげる。
「チャレンジオープンガバナンス（COG）」など外部コンテストへの応募を目標に設定し、アイデアの質と実現性を向上。
連続講座形式の場合、全回参加必須とせず、参加ハードルを下げる工夫を行う。

➤ 成果の明確化

課題解決提案に対する行政からのフィードバック（検討結果、担当課のコメント、データでの事実確認など）を公開し、参加者の自己効力感を高める。

➤ 共創の場の強化

DX推進課だけでなく、関連部署の職員もイベントに参加し、市民と直接対話する機会を設け、共創の文化を醸成。